

子どもへの夢

女性の持つている卵、その
大切さが原点にあります。



女性の身体を考え、本当に必要な不妊治療を見つめる医師

おちウイメンズクリニック・院長

越知正憲

あなたのからだと卵と不妊治療
自然がお手本の医療を提供します

女性の生涯に大切な意味を持つ卵と妊娠。

妊娠への補助医療には、その女性に必要かつ最低限の治療で、よりよい結果に結びつける役目があります

不妊治療で求められて いる先端の採卵法

な最低限の医療による手助けをし、よりよい結果、妊娠し、お母さんになるということへ結びつけないと考えています。



おちウイメンズクリニック
越知正憲院長プロフィール

1983年藤田保健衛生大学医学部卒業。
同大学第二教育病院産婦人科学教室入局。
88年同大学大学院医学研究科修了。聖霊病院、
名古屋第一赤十字病院、八千代病院などを経て、
87年竹内病院トヨタ不妊センター所長就任。
04年開院。藤田保健衛生大学客員講師を務める。

不妊専門医として、結果を出すこと、つまりは妊娠へ結びつけることは大変重要です。しかしその妊娠するまでの方法は、どんな方法でもいいという訳ではなく、本来持っている力を最大限引き出せるようにするべきだと考えています。その力を引き出すためには、医療の手が必要以上に加わっていたのではできません。

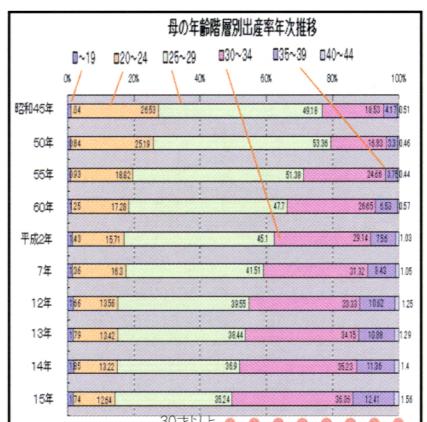
私が非常に大切に考えているのは、自然に妊娠するということです。夫婦がSEXをする。そして自然に大きくなってきた卵が自然に排卵し、精子と卵が出会い、受精し、着床していく。その1つ1つのポイントに的確な方法で必要

加齢による卵の老化を改善するのはとても難しい問題ですが、妊娠できないという訳ではなく、難しくなるということです。いい卵をつくるためには、採卵前2周期がどのような状態であつか、いかなる環境であつたかも

人生は続くのですから

また、不妊治療はその時だけが大事というわけではないのです。妊娠・出産をすれば、その先には育児があります。不妊治療後の出産であろうと元気な育児をし、そして人生を通してずっと元気でいて欲しいと願つての医療です。

私たち、そのことを含めて治療というものをしないといけない強く感じています。



厚生労働省資料より作成

将来的には発展していくと思われますが、現在の日本の医療では色々と解決しなければならない諸問題があり難いでしょう。また染色体の異常による流産率も高くなります。

不必要なステップアップ治療や排卵誘発剤を多量使用する体外受精では、その間にも年齢を重ね、卵の質は悪くなりますから、それを考えるとなるべく体に負担をかけない体外受精がいいのではないか。でしようか。

大事というわけではないのです。妊娠・出産をすれば、その先には育児があります。不妊治療後の出産であろうと元気な育児をし、そして人生を通してずっと元気でいて欲しいと願つての医療です。



1日でも早くママになるために、『いい卵』に出会うこと。
そして何よりも、女性のからだに負担なく優しい不妊治療の推進。

私たちのARTは自然周期採卵、卵巣へ負担をかけずに良質卵を採取。



愛・地球博の『愛知万博』、新設の中部国際空港でどこよりも活気溢れる名古屋。その中心地にあるのが『おちウイメンズクリニック』。診察が終わって、美味しいものを食べて、夜、ライトアップされたオアシス21を「きれいだね♪」と眺めながらの夫婦通院。いつの日か、かわいい我が子を抱きながら「ああ、ここを何度

も通ったね」と思い出すとき、「患者様の健康を願って治療に取組むスタッフがいた。不妊治療に大切な『いい卵に出会う』ために一生懸命なスタッフがいた」と、おちウイメンズクリニックを思い出す方もきっといらっしゃることでしょう。先月(平成17年2月)だけでも30組以上の患者様が妊娠しているとのことですから…。

1日でも早くママになるために必要な第一歩って?

そんな質問に先生は、「 unnecessary examinationをしない、卵誘発をしない、ステップアップ治療をしない、顕微授精をしないで、必要なことを最小限に、そして効率良く行なうことだ」と答えました。

身体的な負担はもちろん、精神的、金銭的にも負担の多い不妊治療。それを軽減した中で最良の結果を出すことが医師に求められて いるというのです。

そこで先生は、体外受精でも多量の排卵誘発剤、点滴などを使わず、内服薬のクロミツドを用いる自然周期採卵を採用することで卵巣に負担をかけることなく、良質の卵が採れ、OHSS(卵巣過剰刺激症候群)などの危険から回避するARTを実施しています。

体外受精というと、「なるべく多くの卵を採って、妊娠率を上げたい」と考えるかもしれません。多ければ妊娠率が上がるというも

のではなく、良質な妊娠に結びつくだけの良い卵が一つでもあればいいとのこと。

では、自然妊娠を考えてみまし ょう。毎回の周期で排卵されてくる卵は1個。多くても2個です。

その1個の卵で妊娠できる力を人間は持っているのです。その力を必要最小限の医療で手助けをし、その人自身が元々持つ力を最大限に活用するわけです。

良質な卵プラスα、もう少し、ここでARTを聞い てみましょう

卵に関しては、今まで刺激周期採卵法を繰り返した患者様や、加齢により卵の質が低下した方には、低下した質をその方の本来あるべきところまで引き上げるため、また少しでもいい方向へ導くためにカウフマン療法(※)などを行ないながら卵巣の機能を高めていきます。その上で治療周期が開始され、無事、採卵を終えると次は受精へと進みます。



愛知県・名古屋市 おちウイメンズクリニック

名古屋市東区東桜1丁目9番19号 成田栄ビル5F
(旧常興会館)

TEL.052-968-2203 初診予約電話番号

名古屋地下鉄東山線 名城線「栄駅」4番出口より徒歩3分

桜通線「久屋大通駅」セントラルパーク7A出口より徒歩3分

FUNIN.INFO掲載診療項目

- 人工授精 ●体外受精 ●顕微授精
- 凍結保存 ●男性不妊 ●漢方

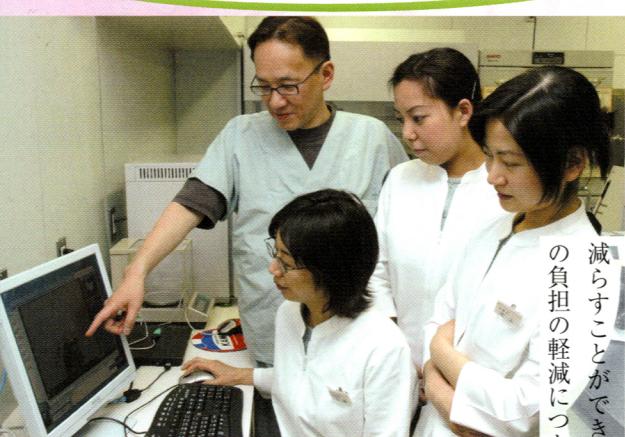
ホームページ <http://www.art-ochi.com>



受付: 普段は患者様に軽く会釈して迎えるんですよ。忙しい時でも明るさと笑顔をスタッフみなで絶やさないようにしたいと務めています。

●動画での紹介や院内紹介は <http://www.funin.info> でご覧いただけます

FUNIN.INFOが注目したおちウイメンズクリニックは
不妊治療のあとまで見据えた診療姿勢



ここでは顕微授精の適応について、(1)主人の運動精子が350万/ml以下の重症男性不妊症の場合、あるいは前回の体外受精で受精障害を認めた方に限定し、採卵の数が少ないという保険的な考え方の下の顕微授精は行ないません。

レスキューアイクシード自然周期採卵を充実化

また、おちウイメンズクリニックでは採卵後のキャンセル予防のために、レスキューアイクシードを採用しています。レスキューアイクシードでは採卵後3時間の前培養後に精子と卵とをシャーレの中で約6時間培養し、6時間後に第2極体の放出の有無を確認、放出しているものは受精していると判断して体外受精を続け、第2極体が放出していない場合は受精していないと判断し、レスキューアイクシードを行ないます。この方法の採用によりICSIを約20%減らすことができ、これも患者様の負担の軽減につながります。

さて、この凍結融解胚盤胞移植のメリットは、子宮の環境を整えてから着床しやすい胚盤胞を戻すところにあるのです。採卵して受精した卵のその後の分割は順調に進みますが、このとき通常、体内で進む分割の速度と培養液の中で分割の速度は微妙に違い、子宮内に胚盤胞を移植した時には妊娠しやすい環境の内膜ではないことがあります。

そこで、この環境を整えるため、それによる危険を回避するためですが、当院においてはARTによる多胎やその減数は例の無いことです。

また、おちウイメンズクリニックでは採卵後のキャンセル予防のために、高める目的で凍結融解胚盤胞移植のチャレンジになります。おちウイメンズクリニックの原則は、単胚移植。つまり胚は1つしか戻しません。多胎を避けるため、そして、それによる危険を回避するためですが、当院においてはARTによる多胎やその減数は例の無いことです。

さて、この凍結融解胚盤胞移植のメリットは、子宮の環境を整えてから着床しやすい胚盤胞を戻すところにあるのです。採卵して受精した卵のその後の分割は順調に進みますが、このとき通常、体内で進む分割の速度と培養液の中で分割の速度は微妙に違い、子宮内に胚盤胞を移植した時には妊娠しやすい環境の内膜ではないことがあります。

なるほど、培養室の方にもお聞きしてみると…

「当院では必要な箇所には十分に医療の手を施して、最良の結果である妊娠へ出産へ結び付ける。それが院長と私たちスタッフの考え方です。

この卵への考え方も、女性への大切なメッセージを含んでいます。患者様と同じ女性としても、私は一つ一つの卵を大切に、日々従事しています」



不妊治療をされるみなさまへ

「治療をしている今だけが大事なのではなく、生涯ずっと大事な身体をあなたが持っているのです。私たちもそのことを含めて治療をしないといけないと感じています。患者さんにとっては、これからもずっと付き合う身体だからこそ、必要以上に排卵誘発剤を使いたくない。hCGを使いたくない。それが将来、何らかの障害を出すことになるかもしれない。もし障害が出て

しまったら、その時その人はお母さんなのです。育児や家族生活にも影響が考えられますよね。だからこそ負担の少ない形で1日も早くお母さんになって欲しいのです。そして、ずっと元気なお母さんでいて欲しい。そう思ってなりません」

最後に先生と話したこと、本当にそうです。ママになりたい、でもずっと元気なママでいたい。そのための治療なのですから。

院内紹介：受付のあるロビーは椅子が受付とは反対向き、待っている人に落ち着ける様、工夫されていた。カウンターには患者様の意見が記されたノートが置かれていた。培養室へはエアーシャワーできれいになっての入室。設備もスタッフの技術もグッドな感じで、安心と好感の持てる院内だ。



カウフマン療法：カウフマン療法というはホルモンを投与することによって通常のバランスの取れたホルモン動態をつくってあげることで10日前後の期間、卵胞ホルモンを投与し、続いて卵胞ホルモン+黄体ホルモンを2週間前後投与します